

PSS、新宿にラボ



PCR検査 日本モデル

【千葉】プレシジョン・システム・サイエンス（PSS）はPCR検査の日本モデル確立を目指し、東京都新宿区に「PSS新宿ラボトリー」を開設する。ラボを拠点に医療・研究機関と連携し、新型コロナウイルス感染症以外の病気の検査に必要な試薬を開発するほか、企業単位のPCR検査を請け負う施設として活用する。24時間稼働で1000以上の検体を検査できる能力を生かし、PCR検査装置の可能性を追求する。

▲PSSが開設するラボは延床面積が150平方メートルで、全体の3分の2を検査スペース、3分の1をショールームとして使用する。投資金額は1億円超で、全自動PCR検査システム「ジーンリドエイト」や「エリート」を導入予定の検査装置

医療などと連携、試薬開発も

インジニアス」などを設置。26日に報道機関向けに公開する。

衛生検査所の登録が完了し、遺伝子を含む検体を使用する試薬と装置の開発が可能。従来、自社単独で検体を取り扱えなかったため、商品化まで時間がかかっていたのが課題だった。

今後、医療機関や研究機関と連携し、がんやエイズなどの検査に必要な試薬の開発を目指す。企業の従業員の新型コロナウイルス感染症のPCR検査を受託して保健所への連絡を担うことで、社会的な問題になっている保健所の業務負担改善にもつなげる。